

須波のまちのすてきな自慢

須波小学校の自慢は、地域との関わりがとても深いことです。地域のみなさんとのつながりと支えの中に、僕たちの学校はあります。

毎年学校で行われる「ふれあいフェスティバル」では、地域と学校が協力してとんどを立て、みんなの健康や安全を祈ります。また、もちつきや昔の遊びを一緒に行います。須波小自慢の「須波っ子太鼓」の披露もします。こうした活動を通して、僕たちは地域のみなさんとふれあい、その思いや温かさを知ることができず。新型コロナウイルス感染症の拡大が落ち着き、今年はふれあいフェスティバルが行われることを心から願っています。

また、僕たちが毎朝通る通学路には、いつも僕たちを待って下さっている方々がおられます。「おはようございます。」とあいさつを交わし、じゃんけんをするのが日課です。思わず笑顔になり、元氣よく歩くことができます。

さらに、毎月読み聞かせをして下さる読書ボランティアの方々もおられます。僕たちは読書が大好きになり、学校の読書活動がとても盛んにできています。高学年が

低学年に絵本を読んだり、司書の先生と図書委員会が中心となってスタンプラリーなどのイベントを行ったりしています。児童会は本をたくさん読んだ人へ表彰状を贈ります。また、本を読むだけでなく、本の紹介文も掲示しています。他にも、僕たちにわけぎやさつまいもの収穫などを体験させて下さる地域の方もおられます。地域との関わりの中で、地域の自然や文化を知ることができます。地域の方々を支えられている須波小学校のことが、僕は大好きです。これからも、須波小学校が誇れる地域との絆を大切に受け継いでいきます。



わがまちに望む夢

三原の未来を担う子ども達の声を紹介します
— 連載第48回 —

緑あふれる中之町

私が住んでいる中之町。大きなお店が少ないので、もしかしたら地域の中には住みにくいと思ってる人もいるかもしれません。でも、私は大好きなところがたくさんあります。その中で特に大好きなところを取り上げるとすると、自然に恵まれているということだと思います。

学校で地域の学習をするまでは、意識していなかったけれど、地域の自然にふれる度に興味をもつようになりました。パンジーやミニトマト等の野菜を畑で育てたり、特に中之町には学校林があり、ふだんあまり出会うことのない植物にふれたりすることもできました。

このような自然を工夫して活用することはできないか、そして、中之町を盛り上げることはできないか考えてみました。

そして考えたことの一つは、DIYを取り入れることです。自然は、確かに見て楽しむことも魅力の一つです。けれど見て楽しむだけではせっかく自然が多い町なのにもったいないと感じます。様々な方にDIYの活動を通して自然のよさを伝えていくことがまずは重要だと考えました。そして中之

町で、自然を使ったハンドメイド体験やDIYのお店を開くことができれば、地域はもっと盛り上がるかと考えています。まずは週に二、三回、公共施設や駅前等、みんなが集まりやすい場所にボランティアで作った物を販売してはどうでしょうか。そして学校と地域が連携しDIYの取り組みをすれば、自然にあまりふれる機会のない人たちにもこの活動を通して自然の良さや大切さを伝えられると思います。



いずれば三原市以外の他の町の人にも広めていき、中之町そして三原市を盛り上げていきたいです。